

「失敗しない金属床の部分床義歯を日常化するために」

いまさら言うまでもなく、欠損補綴は、歯科医師の技術的な問題だけでなく、歯科技工士との連携にも結果が大きく左右されると考えています。

特に部分床義歯では、その連携の比重が大きく、私自身、長年悩み、試行錯誤を重ねて来ましたが、ある歯科技工士との出会いから現在の手法に辿り着き、それに伴い金属床の臨床では全く違う結果を出せるようになりました。

患者さんへの説明から始まる治療の流れ、歯科技工士やスタッフとの連携など一連のシステムが構築できれば、金属床部分床義歯は身近になり、診療室を明るくしてくれると感じています。

今回は、現在の当院での治療の流れ、気をつけているポイント等を紹介します。様々な手法がある中で「一つの方法として」皆さんの臨床の一助になれば幸いです。